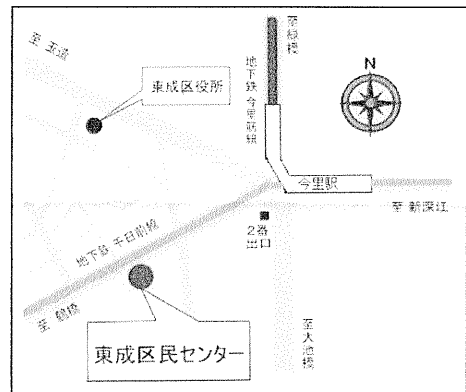


4/22(月)午後6時～ 大阪市東成区民センター

## 「竹島の日」を考え直す会:発足の集い

領土ナショナリズムの「竹島の日」を考え直そう!対立でなく、友好と共生の絆を守ろう!

竹島=独島問題は、日韓両政府が、領有権を主張し合っている問題です。戦後独立した韓国は、1948年、独島=竹島を慶尚北道鬱陵郡に含め、1954年からは海洋警察隊を常駐し、実質的に自国領土としています。これに対して、日本政府は、1905(明治三十八)年、閣議決定で、2/22に竹島=独島を島根県隠岐島所管としたので、「不法占拠」とみなしています。政府が、領土ナショナリズムを鼓吹する下で、2005年、島根県議会は「竹島の日(2/22)を定める条例」を可決し、政府は国家行事へと画策しています。一方、韓国政府は、日本軍が韓国の主権を侵害していた日露戦争の最中に、韓国領の独島=竹島を奪い、更には韓国「併合」で全土を植民地化した、その前段として奪われた独島=竹島を取り返した正当な行為とします。このような歴史の事実から、竹島=独島問題は、日韓両国が領土問題として対立しあうのではなく、日韓両国民が歴史問題として理解しあうことでこそ解決できます。



ところが、日本の巷では、歴史的事実を正しく伝えていない知識・情報が流れています。政府が、竹島=独島を領土問題化しているからです。政府は、「竹島の日」の国家行事化、そして、「君が代・日の丸」強制と同様に、検定教科書への竹島日本領土記述、学校での領土教育強制など、ナショナリズムを高揚し日韓の対立を増幅しています。それは、竹島=独島から韓国「併合」の負の歴史を踏まえ、善隣友好こそ戦後日本の課題として積み上げてきた営みを否定します。政治的経済的文化的面でも、親善行事から個々の人間関係にまで、歪みを生じさせています。培われてきた在日韓国人との共生の絆を傷つけます。領土ナショナリズムは、敵対関係をつくり、軍備増強!戦争への道を開くものです。ここに、竹島=独島問題を正しく理解する為に、「竹島の日」を考え直す会を発足します。あなたが4/22(月)午後6時、大阪市東成区民センターに結集を!(連絡先 06-6653-0280 本会本部)

### 「竹島の日」を考え直す会:発足の集い

開会挨拶 「友好と共生の絆を守りたい」 代表 尹 滌夏(在日一老翁)

講演1 「『竹島の日』と高校教科書検定を批判する」

副代表 黒田伊彦(元大阪樟蔭女子大学講師、部落解放・人権研究所反差別部会)

講演2 「地図・史料の証左 竹島=独島は、領土問題でなく歴史問題である」

副代表・理事長 久保井規夫(元桃山学院大学講師、アジア民衆歴史センター主宰)

決起の辞 顧問 戸田ひさよし(門真市議会議員、連帯ユニオン近畿地本顧問)